

**【講師】**

都築 優治 Ray Dental Labor 代表

**【演題】**

Reflection～審美領域における対応とプロセス～

**【抄録】**

昨今の審美修復治療における臨床成果は、その修復結果やプロセス等どれを垣間見ても多くが水準を満たし、もはや確立された治療カテゴリーとも言えるだろう。また逆に、それらが適切に行えない場合は何らかのコミュニケーションエラーやテクニカルエラーが大きく起因していることも現実である、本来、歯科技工士の役割は、クリニカルサイドでの治療の後に最後のバトンを託される存在でもあるため、治療行為そのものの成果を最大化させる豊富な鍵を握っている。そこで今回、様々な審美修復症例を供覧いただき、補綴装置の完成に至るまでの対応や経緯を紹介しながら口腔内に反映された意図の一端を感じ取って頂ければ幸いです。